

# トサカメオトラン

絶滅危1A類(CR)

Geodorum densiflorum



トサカメオトラン(愛知県 栽培品 10.7/17)

沖縄県に自生する中型の地生蘭です。林道脇や川沿いの開けた広葉樹林や草地など、比較的明るい林下に自生します。

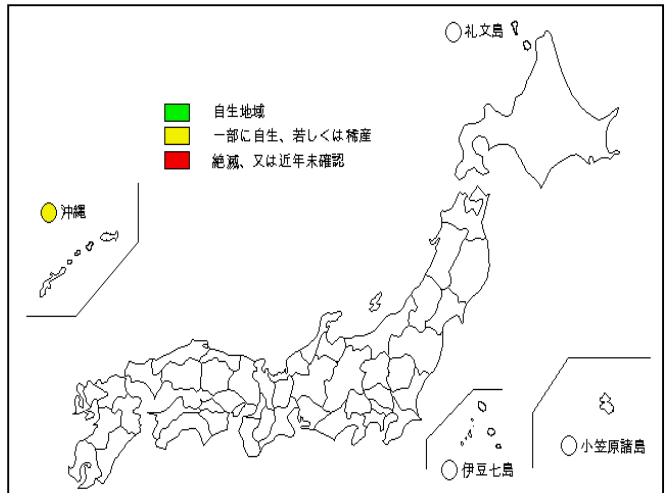
草丈は30cm程度で木立になり常緑で、エビネのような葉を2~3枚展開します。

下記は6~9月ごろとばらつきがあり、葉と平行して直立に伸びた花茎が開花時にはU時に垂れ下がり、花は反り返って天を仰ぐ姿が特徴的です。(これが「鶏冠夫婦蘭」と呼ばれる所以のこと)

本種は自家受粉するようで結実率が大変良く、結実後はまた成長時のように花茎が垂直に戻るというなんとも不思議な蘭です。

地下には100円玉大でエメラルドグリーンをしたバルブがエビネのように連なっております。

沖縄の野生蘭の中では自生地域が限定している割には比較的強健で、森林でなくとも造成地や原っぱなど明るい場所にも見られるため自生量は多いほうです。



### 沖縄の明るい草地に自生します。



トサカメオトラン(愛知県 栽培品 10.7/17)

ラン科の中では比較的観賞価値が高いほうですが、草丈は大きく花もそれほどぱっとしないため知名度は低く商用価値も少ないので積極的な栽培・増殖は行われていません。ただし、このU字に頭を下げる姿は非常にユーモラスで珍しいため、好奇心で栽培される方もしばしば見えるようです。

このように、「育てやすく増えやすいけど、未だに盗掘されている」マイナーな蘭こそ積極的な増殖を行い、それに商用価値を見出すことが重要だと考えます。どんな蘭であろうと、いつまでも自然からの供給に頼ってはいは絶滅は免れません。

このネット社会のなかで潜在ユーザは沢山いるはずですが、これからは業者の方にも「売れる蘭だけを育てる」ではなく、「マイナーな蘭こそ育て、増殖し、買い手を捜し利益を出す」という自生時から切り離れた循環を構築して頂きたいと思えます。

マイナーな蘭で本格的な商用増殖は行われていない為入手は困難です。まれに栽培、増殖は容易な為愛好家の方が増やされた一部が僅かに市場に出回ることはありますが、圧倒的に盗掘による供給量のほうが多いのが現実です。

栽培自体は容易です。成長期の日照と灌水、冬期の温度管理(最低10℃は必要)さえしっかり出来れば用土を問わず栽培できます。開花後によく実が付きませんが、実生による増殖は一般趣味家では困難なので、花茎は根元から早めに切ってしまったほうが株に栄養が蓄積でき来年の花付に影響します。

増殖は基本的にはエビネと同様です。地下バルブを2~3個単位で切り離してそのまま埋めておけば数ヶ月で新芽を形成しますし、自然増殖でも株分かれて増えます。(毎年必ずではありません)



トサカメオトラン(愛知県 栽培品 10.7/17)



この姿が夫婦と呼ばれる所以だそうです。



トサカメオトラン(愛知県 栽培品 10.7/17)



トサカメオトラン(愛知県 栽培品 10.7/17)